

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0174100990), 法人名 ((株)ピッチ&パッチ), 事業所名 (グループホームいよいよ春採-1), 所在地 (釧路市春採1丁目14番6号), 自己評価作成日 (令和元年11月8日), 評価結果市町村受理日 (令和元年12月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

眼下に春採湖を望み、四季折々の自然を楽しむことのできる景観豊かな環境に立地しています。利用者様お一人お一人が安らぎを持って生活でき、もう一つの我が家として、安全に安心して生活できますよう支援しています。笑顔や喜びのある生活が提供できますよう、それぞれの趣味や身体機能に合わせ、散歩、カラオケなどのアクティビティにも努めています。季節感を感じて頂いたり、外気浴や気分転換のためドライブ・ショッピング・外食などの外出支援を積極的に行っています。又、敷地内ではヤギを飼育し、餌やりを外へ出たり、窓から眺め刺激や癒しになっています。地域との交流も深く、季節の行事を企画し皆さんに来て頂いたり、地域の行事に参加させて頂くなど地域に根差したホームです。ご利用者様の居室やフロアはアロマオイルを使い、香りによって心身を健康に過ごして頂けまよう、癒しの空間づくりをしています。家庭的な雰囲気を感じて頂くために、スタッフの衣服はユニフォームを着用せず、私服にしています。又、外出時に乗車して頂く車も社名を入れていません。常にホームの生活は、家庭生活の延長線上にある事を意識して支援に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0174100990-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年11月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春採湖が望める高台に立地し、一望に開ける景観が利用者の心を和ませている。ヤギの飼育がさらに優しい心を育てている。四季の移ろいを語り、自分らしい時を過ごす、その様な生活を目指しているグループホームいよいよ春採は、平成18年開設された。「今日も一日楽しく有意義に過ごす」を理念に、笑顔と挨拶を心掛け、介護に取り組んでいる。玄関にはこの理念が墨跡で書かれ掲示されており、出勤する職員が気持ちを切り替えて利用者に向き合える様に取り組んでいる。グループホームいよいよ春採は「温もり」「優しさ」「清潔感」があり、いつも利用者の思いが叶えられるような介護に取り組んでいる。言葉遣いが良く、離れる時には声をかけており、利用者、他の職員が気付くような配慮が行き届いている。日常の様子は担当職員直筆の手紙で毎月報告されており、利用者や家族からの信頼は厚く、コミュニケーションが取れている。また、地域とのかかわりも、地域会館の清掃活動やサロンへの参加、夏祭り、盆踊りの参加と交流が出来ており、更に事業所の緊急連絡網への協力も得られている。フルタイムで働く職員は全員が正社員であり、研修時受講や資格取得は事業所の支援で行っており、働く環境整備も為された事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding user needs, staff interaction, user independence, staff support, user outdoor activities, user health management, and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今日も一日楽しく有意義に過ごす」の理念は、職員の目につく玄関に掲げ、職場に来たら気持ちを切り替え、利用者様やスタッフ同士でも笑顔と挨拶を心がけ、気持ちよく働けるようにしています。	理念は書道をされている地域の方に書いて頂き、職員が出勤時に気づくよう玄関に掲示し、常に意識する様指導している。新人にはホーム長がオリエンテーションで指導するよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会行事には利用者様が参加し、昼食も地域の大勢の方と頂き交流をはかりました。避難訓練、夏祭りボランティアで参加していただいています。また、地域の保育園夏祭りにも招かれ子供たちとも交流しています。	町内会に加入し、回覧板や町内会便りが届けられており、会館の清掃協力や夏祭り、盆踊りに参加している。また地域の学童保育園の祭りに招待を受け、参加交流をしている。利用者の散歩時には日常的に近所の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に、行事のボランティアをお願いしたり、避難訓練に参加して頂き、こちらからも地域の行事に参加する中で、利用者様と接する時間を多く持つことで認知症の理解を深めてもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の取り組みについてや普段の利用者様の様子、事故報告等を行い、地域の方、御家族の感想、御意見を参考にさせて頂いています。	運営推進会議は年6回利用者家族、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、他グループホーム職員の出席を得て開催している。多くは行事、訓練終了後に開催しており、多くの意見を得て運営に活かしている。欠席家族には議事録を送付し共有を図っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や昼食会に参加していただき、ホームの様子を見ていただいたり、普段取り組んでいることをお伝えしています。	市担当者や、地域包括とは報告書の提出に訪問したり、地域ケア会議へ参加して、情報や指導、助言を得ており、積極的に協力関係を築いている。地域包括支援センターの方には運営推進会議へ参加を得て、様子を見て意見を頂いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年度の初めには、ホームの指針を職員に伝えました。身体拘束委員が研修で学んできたことを共有し、又、それを踏まえて普段感じていること、疑問のアンケートを取り研修を行なっています。	身体拘束廃止に向けては、身体拘束廃止等の適正化のための指針を策定し、ホーム長、管理者、ケアマネ、各ユニット職員1名の適正化委員会を作り、身体拘束のしない介護が出来る様取り組んでいる。職員には日々思っていることを提出してもらい、全体会議で研修しながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員が研修で学んできたことを共有したり、普段感じていること、疑問のアンケートを取り研修を行なっています。スタッフ会議等でもスピーチロックにならないような言い方を話し合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学びましたが、新しい職員もいるので再度学ぶ機会を作っていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、管理者が利用者様と御家族に十分な説明を行っています。また、退去時においても安心して退去できるよう支援しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来設された時には、時間を作り利用者様の様子を伝え、御家族からは、意見や要望を伺っています。利用者様からは、会話や表情の中から思いを受け止め、反映できるよう心掛けています。	利用者、家族の意見や要望は毎日の会話や面会時に把握するよう努めている。家族へは、担当職員から身体状況や日常の様子を毎月直筆の手紙でお知らせしており、様子が見えるようだとして好評を博している。面会時にも丁寧な対応で信頼関係が構築されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議で、職員の意見、要望、提案を聞き反映するよう努めています。又、業務中にも意見・提案を聞かせる機会を設けています。	職員の意見や提案は日常の業務の中や毎月の全体会議でホーム長、管理者が把握しており、働きやすい環境整備が出来ている。資格取得も時間や金銭面等全面的な支援が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を把握し、働きやすい時間の勤務を可能にしています。資格手当・昇給やボーナスの支給が有り、有給の取得にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得には勤務調整を行い、費用面でも援助があります。必要と思う研修には積極的に支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設実習をきっかけに、他グループホームの管理者と交流する機会を得て、意見交換や互いの運営推進会議に参加することができました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、御本人・御家族より生活歴、現在の生活の様子を聞き取りしています。入居前にできるだけスタッフミーティングの時間を設け、生活状況等の確認をし、その人らしく生活できるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、御家族と面談の時間をもち、不安な事、求めている事、困っている事をお聞きし、その言葉を真摯に受け止め、御家族との信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、看護師、ケアマネが対応し、ホームの中でどんな支援が必要なのかを考え、ケアプランを作成し、職員全体で共有し、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、畳んだり、調理の手伝いなど本人のできる事や、したい事を職員と一緒に会話を楽しみながら行い、良い関係を築いています。又、ご本人の持っている能力を伸ばすよう、あるいは長く維持できるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問を大切に、利用料の支払いは出来るだけお持ち頂き、その際に利用者様の様子を伝えています。月初めには、ホームでの様子や行事等の写真、担当職員からは自筆のお手紙を送付し、御本人の様子を詳しくお知らせしています。ケアプラン更新の際はご家族の御意見を伺い参考にしていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の思い出の場所にドライブに出かけるなど、利用者様の思いを大切にしています。友人・御家族の来設時には、ゆっくり居室等で会話をさせていただくなど、外部の方の訪問しやすい環境作りに心掛け、馴染みの関係が長く保てるよう支援しています。	利用者の昔から通っている美容室への訪問は、家族又は事業所に対応支援している。買い物へ出かけたついでに理容店へ立ち寄る利用者もいる。また、知人の訪問があり、その時は話が出来る雰囲気を作り、関係継続が出来る様取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り調理や片付け等のお手伝いを一緒にして頂いています。買い物・ドライブ等の外出支援時はメンバーを工夫し楽しくお出かけでき、自然に支え合う関わりができるよう努めています。また歌やレクリエーションを通して楽しみを共有できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても本人や家族の心のケアを大切にし、相談があった時は支援に努めています。入院が長引き退居になった方や、亡くなられた方のご家族とも関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人がどのような生活を望んでいるのかを一緒に考え、意思表示の困難な方は、御家族からの情報・生活歴・性格など踏まえて利用者様主体で生活できるよう支援に努めています。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は日常の会話で把握できる様努めている。契約前にアセスメントや生活歴で情報を得ておき、実践出来る様取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートにて生活歴や生活環境についての把握をしています。又、御家族や利用者様の会話からも情報を得サービスに反映するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりに声掛けをし、表情やバイタル測定で体調管理を行っています。一日の様子を生活記録に記入し、変化があればスタッフ間で情報を共有しています。また、利用者皆様のできること、好きなこと、苦手なことを把握し支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は常日頃よりご本人の気持ちに寄り添うよう努め、毎月会議でモニタリングを行っています。ニーズ課題を話し合い、その人らしく生活できるよう介護計画を作成しています。又、御家族に意見要望を伺い介護計画に反映しています。	介護計画は特変がなければ、基本的に短期目標期間の6か月毎に利用者、家族の要望を反映して見直しを行っている。毎月ユニット会議の中でモニタリングを行っており、現状に即した計画作成が出来る様取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・生活記録・気付きシートに記入し、スタッフ間で情報を共有し、介護の見直しをしたり、介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族が同行できない通院介助や、急な病院受診には職員が同行しています。本人希望の買い物同行や美容室などもその都度対応しています。地域のふれあいサロンなどホームの外の方々とも交流を行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の各種行事に参加しています。また、ホームの行事や避難訓練に町内会の方々に協力していただき交流しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人御家族の希望したかかりつけ医に診て頂いています。受診の際はご家族に日常の様子を伝えていきます。往診時は看護師が同席し対応し連携体制を取っています。	定期的受診はこれまでのかかりつけ医のところへ家族対応で行っているが、要請によっては事業でも対応している。往診を受けている利用者もおり、事業所の看護師職員が対応し、適切な健康管理が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日常の体調や様子を看護師に伝え指示や助言を受けながら介護しています。夜間帯の緊急時も電話連絡し、支持を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員がお見舞いに行き安心して治療したりホームへ戻れるよう配慮しています。病院の看護師からは入院時、退院時の生活について情報を収集し、職員間でその情報を共有しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入居の際には看取りの説明を行なっています。ホームでの看取りを希望された時は、御家族、主治医、看護師、と連携を図り、再度詳しく説明を行い、納得のいく終末期を過ごして頂けるよう支援しています。	重度化した場合や終末期については、契約時に重度化した場合の対応指針で説明し、理解を得ている。また、訪問診療を受ける様になった時には再度確認しており、医療関係者、家族、事業所で連携を取り、看取り介護に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議の中で事故発生時の対応や、対策を話し合っています。救急時の対応、AEDの操作、心臓マッサージについても、年1回職員研修を行なっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間帯の避難訓練を行なっています。地域の方にも1回は参加していただき、役割を確認しています。2階からの車椅子の方の救助はタオルケットを使って行ないました。	火災の避難訓練は年2回、日中、消防署の指導の下、夜間想定で実施している。その他災害用具やAEDの使用法の研修に取り組んでいる。訓練には町内会長の参加や緊急連絡網には同じ班の協力を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを傷つけないように配慮し、異性の介助が嫌だと話される利用者様には同姓で行い、誇りやプライバシーを損ねないように声掛けを行なっています。	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを傷つけないよう対応している。呼びかけは苗字さん付けを基本とし利用時に確認している。その場を離れる時には「離れます」と断りを入れており、利用者、職員が気付くよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を尊重し何をしたいのか伺い支援しています。外食時には利用者様が食べたいものを選んでもらう等、自己決定できる場面を作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の一人ひとりのペースを大切にしています。歌や塗り絵等レクリエーションは強制せずに参加していただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣は、本人に好きな服を選んで着ていただいています。迷っているときには相談に乗り一緒に選んで着ていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の調理や盛り付けなど一緒にいき、食事の用意をしています。利用者様の好みや食べたいものを聞いて食事の用意をしています。	食事の用意は当日の担当者が利用者の好みを考慮して用意している。誕生日には希望により個別外出で食事に出かけたりしている。デザートと一緒に作ることもあり、楽しい食事になっている。毎日、昼食には手作りヨーグルトを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面ではバランスを考え提供しています。年齢・持病・嚥下状況・体重の増減も考慮しています。個々の状態に合わせて食事量の調整や形態(刻み食・お粥)にも配慮しています。水分摂取量の少ない方には小まめに声掛けをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援をしています。入れ歯使用の方は、就寝時洗浄剤を使用し常に口腔内の清潔に配慮しています。自力で行えない方にはスタッフがケアの介助をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し時間を見て誘導したり、トイレで排泄できるよう表情や体の動きを見て、トイレサインを感じ取り誘導を行っています。夜間ポーダブルトイレを使用している方もいます。	一人ひとりの排泄記録をつけ、パターンやサインを把握して、様子を見ながら声掛け誘導でトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には、水、牛乳、スポーツドリンク等好みの物を飲んで頂き、10時のお茶の時間には水分をたくさん摂っていただくよう声掛けをしています。昼食時には自家製ヨーグルトを提供し排泄に繋がるようにしています。、体を動かす機会を持つために、テレビ体操、足上げ体操も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて、週2～3回の入浴ができるよう支援しています。入浴拒否のある方は、無理強いせず翌日入ってもらうようにしています。入浴できないときはシャワー浴で対応し、気持ちよく生活できるよう支援しています。スタッフの人数配置により、入浴の間隔があいてしまうこともときにはあります。	お風呂は毎日用意しており、週2回から3回の入浴を行っている。介助は利用者の意向を尊重し、同性を希望する方には同性介助で取り組んでいる。その日の状況や状態で無理強いせず気持ちよく入浴できる様取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めず、個々のペースに合わせて休んで頂いています。日中は運動やレクリエーションを行い生活リズムを整え、できるだけ夜間ゆっくり休めるよう支援しています。季節に合わせて寝具や室温、衣類を考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬ファイルを作り用法、用量を把握しています。毎日、服薬確認表で氏名、日付け、朝昼夜、就薬を確認し飲み終えるまで見守りしています。症状については日頃から観察し、看護師に伝えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、盛り付け、食器拭き、掃除、洗濯など利用者様に合わせたお手伝いをして頂き満足感が持てるよう支援しています。誕生日には、好きなものをお開きし、食事の献立に取り入れお祝いをしています。歌や音楽体操・パズル・かるた・脳トレ等のレクやアクティビティ、ホーム周辺の散歩やドライブをし、気分転換の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く暖かい日は外出を心掛け、ドライブや散歩に出かけ外気浴をしています。利用者様の希望する買い物、外食・温泉入浴等のバリエーションある外出支援をしています。また、町内会や地域の催し物にもできるだけ多くの方が参加できるよう積極的に支援しています。	外出は日常的に散歩や外気浴を行っている。事業所にはヤギが飼育されており、癒しになっている。花見や紅葉を見に他町の公園へ出かけたり、道の駅までドライブに行き食事を楽しんでいる。温泉や近くの銭湯へ出かけ、気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談しホームでお預かりしています。希望に応じ買い物に出かけ、お金が使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で御家族に電話をしたり、知り合いの方から連絡があった時は、取り次ぎをしています。年賀状の作成の支援もしています。塗り絵をしたはがきを姉妹に出している方もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビングは季節感のある飾りつけを工夫し、日常生活や行事の写真を掲示しています。居室、リビングはアロマオイルを使用し、気分が落ち着き居心地良く過ごせるよう工夫しています。	付近は公園になっており、居間からの見晴らしがよく、季節感が感じられるようになっている。建物内は清潔感があり、リビング、廊下は温湿度に気を配り、加湿器を設置しながら環境保全に取り組んでいる。季節の飾りつけ、行事の写真等があり、楽しく居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは好きな場所に座りゆっくり過ごせるようソファの配置を工夫しています。新聞やテレビを見たり、職員と一緒に歌レクリエーション等も楽しんでいただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の馴染みの物、本人が使い慣れた物を配置し、御家族様の写真を貼るなど落ち着いて過ごせるようにしています。	居室にはベット、クローゼット、作り付けのテーブル、棚が設置され、筆筒等の家具を配置している。家族の写真や絵、人形を飾り、自宅同様に暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、車椅子での移動ができるようになっています。玄関、廊下、トイレ、浴室には手すりが設置されています。トイレの場所は、分かりやすいように大きく表示しています。利用者様に合わせた居室の飾り付けや、表札も本人に自室と認識しやすいよう工夫しています。		